



経営指針を創る会特集



経営指針を創る会特集
「経営指針」で未来が見えてきた
経営指針とは？
世界でも注目される
「理念」の大切さ！
第34期「経営指針を創る会」のご案内



DoYu Now

▼「経営者は勉強しなければならぬ」と言われます。経営環境が激しく変わっているからです。逆流を乗り越えていくために知識や経験を身につけなければなりません。

▼ところが「勉強」と言う言葉は「強い勉める」と読めます。「いやだけど、やらされる」と言う意味です。思い切り受身です。コレでは続きませぬね。「経営者は学習しなければならぬ」が正しい表現です。

▼「学」「学ぶ」は「真似る」が語源だそうです。理想とする人物や、なりたい姿（経営理念）をはっきりと見つめます。その理想に近づくために「まねる」つまり形からはいるのも良いでしょう。

▼さらに「習」の字はひな鳥が空に旅立つたに行なう羽ばたきを表しているそうです。目指す姿＝理念に向けて、ひたすら一心に行動し続ける。同友会が経営理念の確立と、その実現を目指す「指針経営」の地道な積み重ねを強調する意味が「学習」と言う漢字に示されているのです。

▼あなたも「経営指針を創る会」で、仲間と一緒に、「経営者の学習」を始めませんか？

第34期「経営指針を創る会」のご案内

「経営理念を軸とした指針経営」と「人間尊重の経営」が一層大切になってきています

産業の空洞化、少子高齢化、地域経済の疲弊、増税などによる国民購買力の後退など今後の経営環境は一層厳しさを増していくことが予想されます。そのような環境に負けず自社をたくましく維持・発展させていくためには、同友会が提唱する「経営理念を軸とした指針経営」と「人間尊重の経営」が一層大切になってきています。是非、滋賀県唯一の本格的な経営者の道場＝「経営指針を創る会」にご参加下さい。

「経営指針を創る会」とは

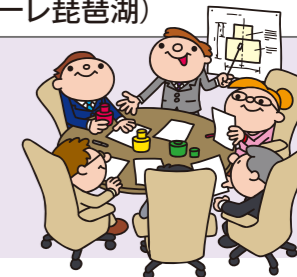
自社の経営の軸となる「経営理念」を策定し、「経営理念」を実現するための「方針」(戦略)、「計画」(具体的年度計画)とあわせて「経営指針書」を作成します。先輩経営者が手弁当で、お手伝いします。

日 程	2013年 8月 9日(金) 18:00～21:00	オリエンテーション(ホテルラフォーレ琵琶湖)
	2013年 9月14日(土) 10:00～15日(日) 12:00	第一講(ホテルラフォーレ琵琶湖)
	2013年10月12日(土) 10:00～17:30	第二講(ホテルラフォーレ琵琶湖)
	2013年11月16日(土) 10:00～17:30	第三講(ホテルラフォーレ琵琶湖)
	2013年12月14日(土) 10:00～17:30	第四講(ホテルラフォーレ琵琶湖)
	2014年 1月18日(土) 10:00～17:30	第五講(ホテルラフォーレ琵琶湖)
	2014年 2月15日(土) 10:00～19:30	第六講(ホテルラフォーレ琵琶湖)

会場は予定です。都合により変更する場合があります。

費用 ●13万円(会場費・食事代・資料代含む。全講受講が原則です。)

参加資格 ●滋賀同友会会員、または後継者 定員 ●15名(先着順)



参加お申込み用紙

第34期「経営指針を創る会」への参加を申し込みます。(FAX 077-561-5334)

支 部 _____ 会社名 _____

氏 名 _____ E-mail _____

電 話 _____ FAX _____

「経営指針」で未来が見えてきた

経営指針書が会社を変革する！



株式会社 あぐり進学
代表取締役 青木孝守氏
(第6回・24期経営指針を創る会受講)

経営指針書(理念・方針・計画)を作成し本格的に改定し始めてから5年。半年に一回、全社で行う指針書の改定が我が社を一步一步、確実に成長、変化させてきています。

創る会では「何のために仕事をするのか」「従業員さんとうどういう姿勢で向き合うのか」など、経営者にとって一番必要で大切、しかし普段は考える機会が少ない本質を見つめ直すことができます。その結果、経営の「体幹」を鍛えられ、太くなり、振れることも少なくなりました。

さらに普段の同友会活動の中から方針・経営計画にもと

づく会社の運営を学び、その知識を活かして、社員さんといっしょに互いの職責分を改定することによって理念や会社への理解が深まり、社風・風土が築かれ、文書化された「あるべき姿」に向かって組織が動いていることを実感しています。

同友会で経営者だけが頭でっかちに勉強をしているだけでは組織は動き始めません。経営に課題がある方は「経営指針を創る会」に参加しましょう。いつやるの？今でしょ。

経営指針を発表し、職場に変化が生まれた。



かがり司法書士・行政書士事務所
代表 太田智真氏
(第32期経営指針を創る会受講)

当時の私は、①従業員が定着しないこと、②業務のマンネリ化、③売上減少の3つの

問題を抱えていました。そこで、経営指針を創り、社員と共有することにより、問題を解決したいと思い「経営指針を創る会」を受講しました。

創る会では、OBの方々に、厳しくも優しいご質問や指摘を頂いたことにより、私の知らない「私」に気付くことができました。自分のルーツや価値観、どんなときが一番幸せか等について深掘りすることにより、経営指針を作り上げることができました。

経営指針を従業員に発表し、朝礼で理念を唱和するようになってからは、職場の雰囲気はより熱く、より楽しく、より厳しいものになりました。

また、「経営指針を創る会」では、他の受講生やOBの方々とは、他の受講生やOBの方々とたくさん時間を共有することができ、これも何よりの財産となりました。

ことが多いので、私は自信をもって「経営指針を創る会」を受講されることをお勧めいたします！

何のために経営をするのか？に答える資格を持つこと。



ひばり観光バス株式会社
代表取締役 山崎 識氏
(第26期経営指針を創る会受講)

同友会へは、先代(父親)の死去、社員との労使問題など、わからないだらけの経営の手引書を求めて入会しました。そして、理念をつくれればすべてが上手くいくと思いき、「経営指針を創る会」に参加をしました。

先代に反発し、逆の事ばかりを行ってきた私にとって、そこには、先代が何回も説いていた言葉がありました。そして、父親が居なくなって自分の行う

ことが、全て先代をなぞることに成るのを知ったのは、経営理念を社員に発表したあとでした。今では、社員やお客様にお役立ちのできる企業として、長浜の地で頑張ろうと思っています。そして、先代が私をどのように判断するのか？それを楽しくに精一杯生きて行く。これが、経営指針を創る会で学んだ僕の立ち位置です。

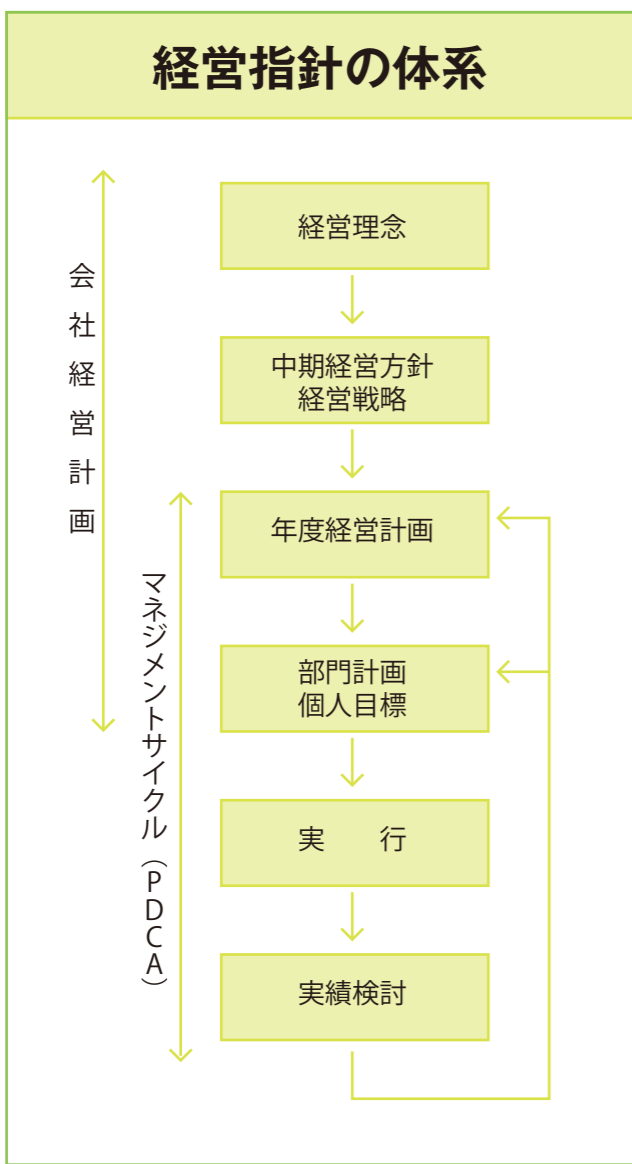
僕は、永遠に理念は完成しないと思いますが、それを目指して精一杯笑顔で楽しんで行く。これが僕の理念です。何のために経営しているのか？僕は、笑顔で「社員と地域でそれを探しています」と応えるのでしよう。私たちは、笑顔創造企業であり続けます。

経営指針とは？

「何のために経営するのか？」と言う、自社の存在理由を明らかにする「経営理念」は会社を単なる人の集まりから、生命力を持った有機体にするための「魂」のようなものと言えるかも知れません。しかし、「理念」が出来たから、会社が着実に変わって行くほど単純なものでもありません。「理念」の実現に向けて自

社の内部環境、外部環境などを分析し、適切な方針(戦略)を立てる必要があります。また、方針を立てただけで、実際には日常業務に忙殺されて、同じところをぐるぐる回っているだけでは会社は、一向によくならないと思います。このため同友会では「経営理念」+「中期経営方針(戦略)」+「年度経営計画」の3つを一体とし

て作成、実践することを推奨しています。この3つをまとめ、そのものを「経営指針書」と呼んでいます。経営者をはじめ、全社員が常に「経営指針書」を意識して、それに基づき、業務、行動、思考を日々積み重ねることが「良い会社」になっていくための必須の条件だと考えています。



世界でも注目される「理念」の大切さ！

基本理念をしっかりさせ、進歩を促す仕組みをつくるビジョナリーカンパニー

2001年に発行され、世界の経営者に大きな影響を与え続けている本があります。「ビジョナリーカンパニー」。業界で50年以上にわたって卓越し続け、尊敬し続けられている700社に上る企業を研究して来た二人のアメリカの研究者が書いた本です。そのポイントは書名のとおり「ビジョン(理念)に裏打ちされた会社」。2人の著者は、「自らの会社を成功し、尊敬し続けられる会社にするためには、何から始めればいいのか」という質問に対して、「基本理念をしっかりさせ、進歩を促す仕組みをつくることである」と答えています。これらの会社は、市場環境

の変化などによって、戦略を変えることは躊躇しませんが、基本理念を変えることはありません。ビジョナリー・カンパニーといわれる企業が、卓越した地位を獲得できているのは、将来を見通す力が優れているからでも、成功のための特別な秘密があるからでもなく、単に自分自身の役割が明確で、そのレベルアップをめざし続けているという単純な事実のためなのです。世界でも注目される「経営理念」の力。ぜひあなたの会社でも取り組まれることをお勧めします。

